

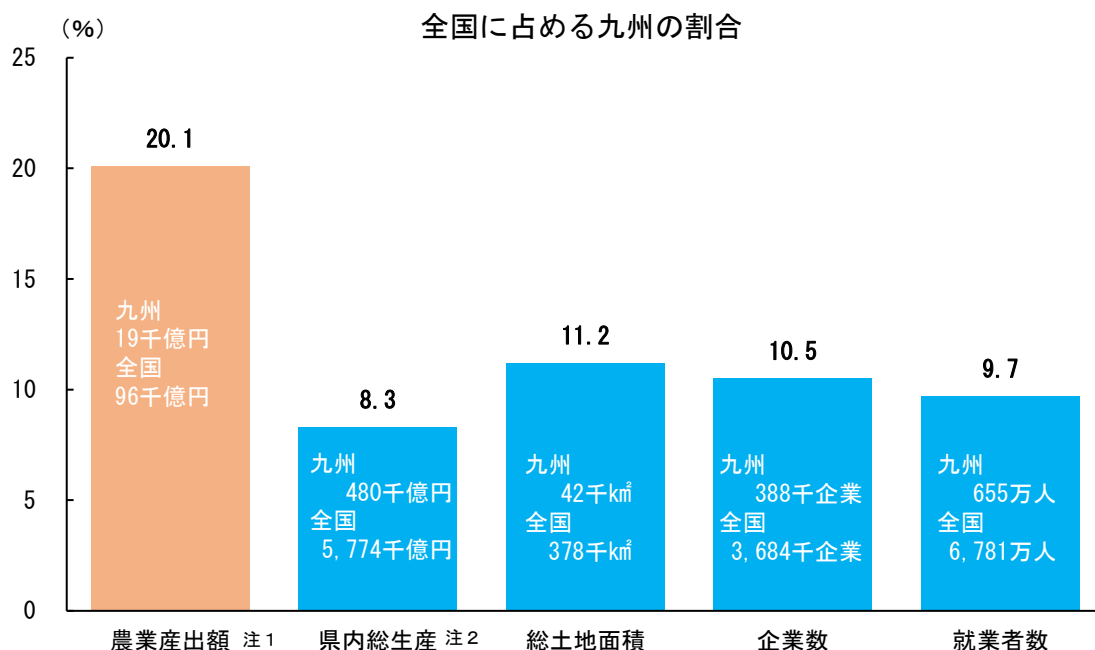
第2章 統計から見たい

構造 — 九州農業の特徴 —

【九州は日本の食料基地】

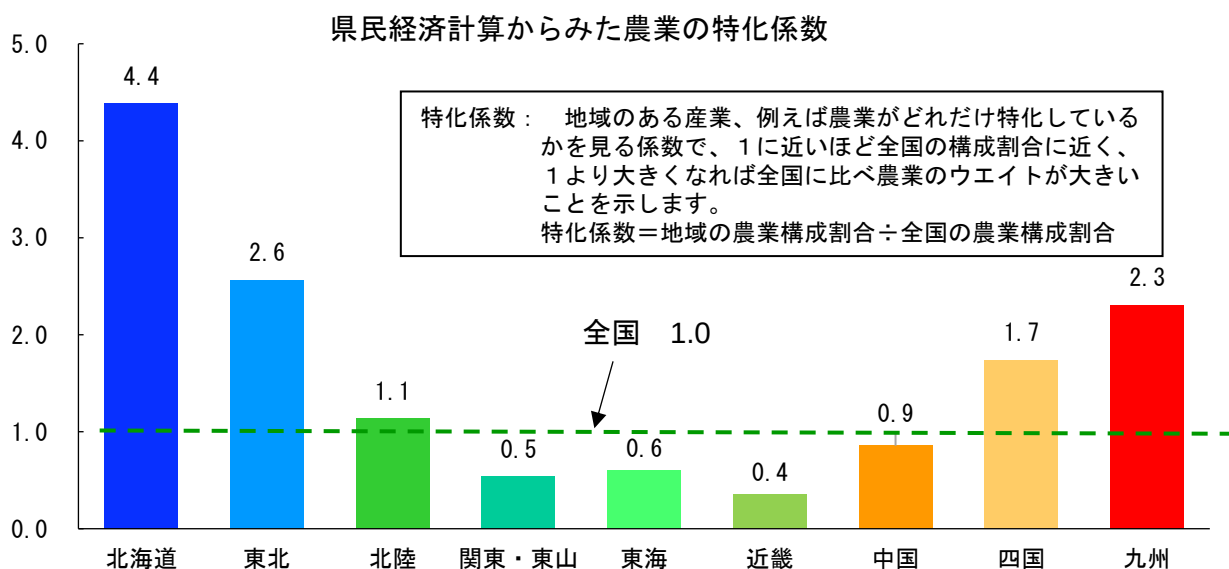
農業が盛んな九州は日本の食料基地となっており、「全国の1割経済」といわれている中、農業産出額では全国の2割を占めています。

また、県民経済計算（県内総生産）の産業別割合から計算した特化係数をみると、九州は全国の中でも農業のウエイトが大きい地域であることが分かります。



資料：農林水産省「令和5年生産農業所得統計」、内閣府「令和3年県民経済計算」
 国土地理院「令和6年全国都道府県市区町村別面積調」、総務省「令和3年経済センサス活動調査」
 総務省統計局「令和6年労働力調査」

注：1 農業産出額は、都道府県別の品目ごとの生産量に、品目ごとの農家庭先販売価格（消費税を含む。）を乗じて求めたもの。なお、農業産出額の全国は都道府県計。
 2 県内総生産の全国は全県計（都道府県計）。

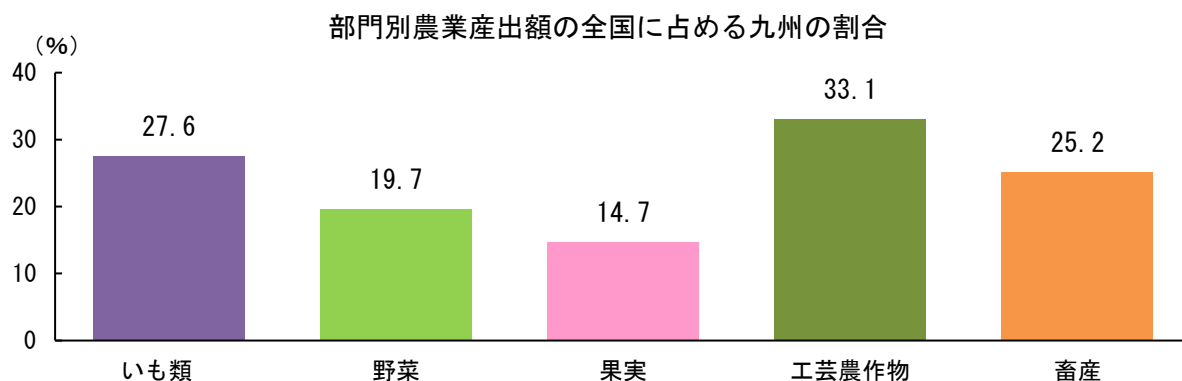


資料：内閣府「令和3年県民経済計算」

【野菜、畜産などの全国上位を占める】

九州の部門別農業産出額の全国に占める割合をみると、いも類、工芸農作物、畜産では約3割、野菜では約2割を占めています。

また、みかんやしらぬい（デコポン）など果実の生産も盛んです。



主な品目別農業産出額の全国に占める九州の割合

単位：億円、%

部門	品目名	農業産出額 (全国)	農業産出額 (九州)	全国 シェア	九州における1位		
					県名	農業 産出額	全国 シェア
いも類	かんしょ	1,096	336	30.7	鹿児島	195	17.8
	ばれいしょ	1,087	265	24.4	長崎	115	10.6
野菜	トマト	2,311	618	26.7	熊本	400	17.3
	いちご	2,055	705	34.3	福岡	244	11.9
	きゅうり	1,413	353	25.0	宮崎	196	13.9
	なす	825	199	24.1	熊本	114	13.8
	メロン	682	154	22.6	熊本	127	18.6
	ピーマン	633	224	35.4	宮崎	123	19.4
	すいか	630	148	23.5	熊本	118	18.7
果実	みかん	1,733	562	32.4	熊本	191	11.0
	しらぬい（デコポン）	172	118	68.6	熊本	81	47.1
	キウイフルーツ	109	32	29.4	福岡	21	19.3
	マンゴー	85	61	71.8	宮崎	49	57.6
	なつみかん	36	22	61.1	鹿児島	13	36.1
工芸農作物	茶（生葉）	443	208	47.0	鹿児島	140	31.6
	さとうきび	304	137	45.1	鹿児島	137	45.1
	葉たばこ	183	102	55.7	熊本	42	23.0
畜産	肉用牛	7,787	3,072	39.5	鹿児島	1,208	15.5
	豚	7,259	2,147	29.6	鹿児島	910	12.5
	ブロイラー	4,471	2,282	51.0	鹿児島	1,067	23.9

資料：農林水産省「令和5年生産農業所得統計」

【農業産出額は対前年比5.6%の増加】

令和5(2023)年の九州の農業産出額は、耕種において米や野菜、畜産において豚や鶏の価格が上昇したことから、前年に比べ1,018億円(5.6%)増加し、1兆9,226億円となりました。

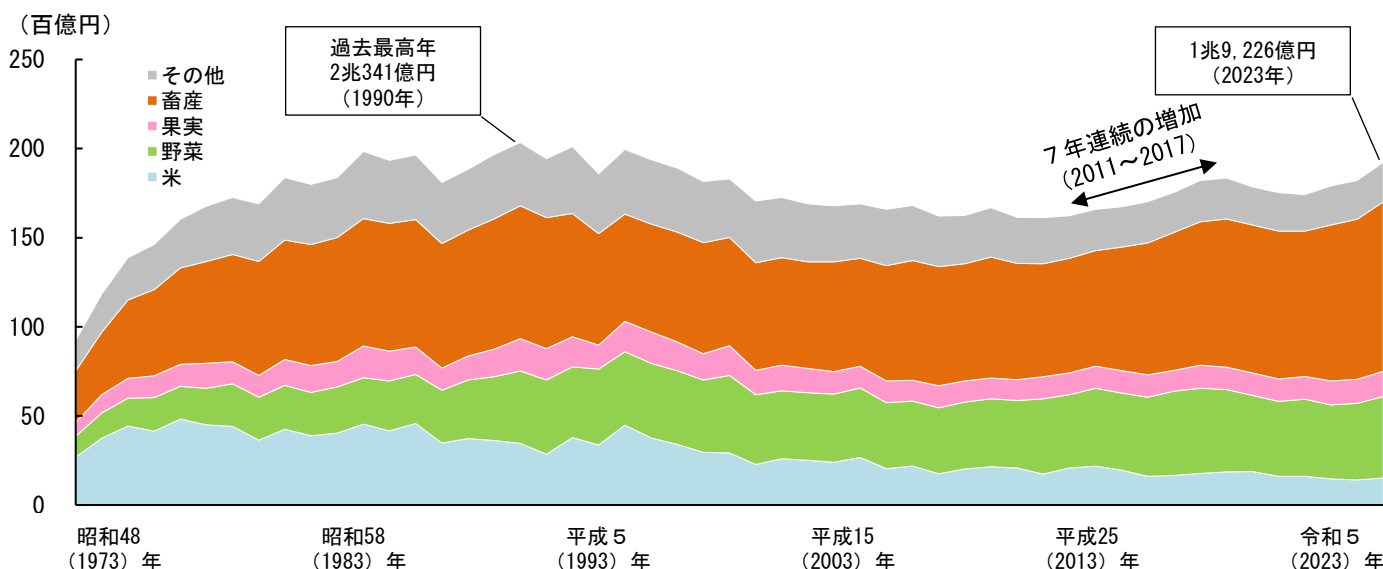
過去50年の農業産出額をみると、平成2(1990)年の2兆341億円をピークに緩やかな減少傾向で推移していたものの、野菜や畜産等を中心に、平成23(2011)年から7年連続で増加しました。その後、平成30(2018)年から再度減少傾向に転じ、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う需要の変動や価格の低下等あったものの、令和3(2021)年には畜産の需要が回復し、現在は3年連続で増加しています。

農業産出額(九州)

区 分	令和4(2022)年		令和5(2023)年		対前年 増減率
	実 額	構成割合	実 額	構成割合	
農業産出額	18,208	100.0	19,226	100.0	5.6
耕 種 計	9,065	49.8	9,557	49.7	5.4
うち 米	1,408	7.7	1,518	7.9	7.8
い も 類	583	3.2	602	3.1	3.3
野 菜	4,298	23.6	4,569	23.8	6.3
果 実	1,353	7.4	1,413	7.3	4.4
花 き	667	3.7	698	3.6	4.6
工 芸 農 作 物	492	2.7	485	2.5	△ 1.4
畜 産 計	8,978	49.3	9,511	49.5	5.9
うち 肉 用 牛	3,199	17.6	3,072	16.0	△ 4.0
乳 用 牛	771	4.2	781	4.1	1.3
豚	2,042	11.2	2,147	11.2	5.1
鶏	2,908	16.0	3,462	18.0	19.1
うち 鶏 卵	750	4.1	1,037	5.4	38.3
ブ ロ イ ラ ー	2,022	11.1	2,282	11.9	12.9
加 工 農 産 物	166	0.9	158	0.8	△ 4.8

資料：農林水産省「生産農業所得統計」

過去50年の農業産出額の推移(九州)



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

【畜産や野菜が盛ん】

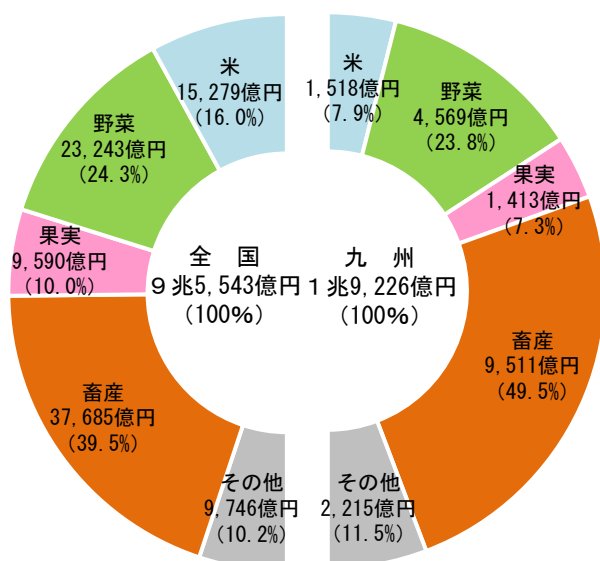
令和5年（2023）年の農業産出額の部門別構成割合をみると、九州は全国に比べて米の割合が低く（全国16.0%、九州7.9%）、畜産の割合が高く（全国39.5%、九州49.5%）なっています。

50年前の昭和48（1973）年と比較すると、九州では、米が29.0%から7.9%に縮小した一方で、野菜は12.7%から23.8%に、畜産は33.0%から49.5%に拡大しており、米を中心とした農業から、野菜や畜産を中心とした農業に推移していることが分かります。

全国も同じ傾向で推移していますが、九州では、畜産が全体の約5割を占めています。

多様な品目への展開が進んだ結果、現在、九州では野菜や畜産の生産が盛んな鹿児島県、熊本県、宮崎県の3県が全国順位10位以内に位置しています。

農業産出額部門別構成割合の比較（全国・九州）
（令和5（2023）年）



資料：農林水産省「令和5年生産農業所得統計」

注：数値及び割合については表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合があります。

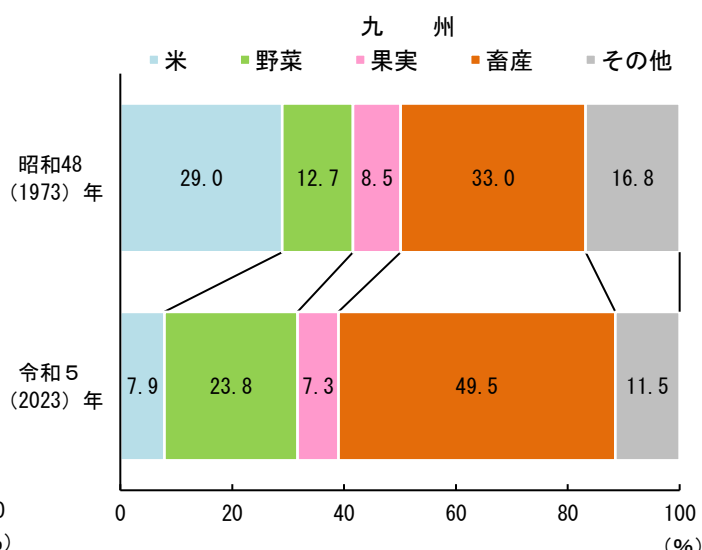
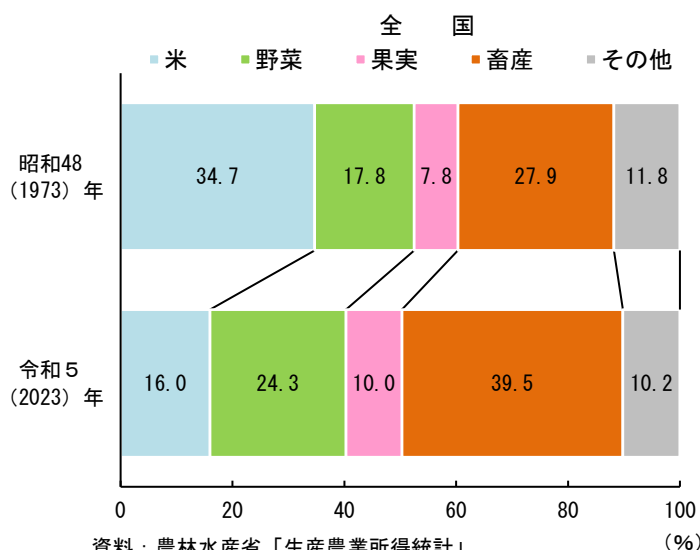
農業産出額全国上位10県の推移

単位：億円

全国順位	昭和48（1973）年		令和5（2023）年	
	都道府県名	農業産出額	都道府県名	農業産出額
1位	北海道	4,707	北海道	13,478
2位	茨城	2,741	鹿児島	5,438
3位	千葉	2,547	茨城	4,536
4位	新潟	2,187	千葉	4,029
5位	福島	2,141	熊本	3,757
6位	愛知	2,047	宮崎	3,720
7位	長野	2,045	青森	3,466
8位	群馬	2,036	愛知	3,207
9位	静岡	2,022	岩手	2,975
10位	熊本	1,939	栃木	2,959

資料：農林水産省「生産農業所得統計」

50年前の農業産出額の部門別構成割合との比較（全国・九州）



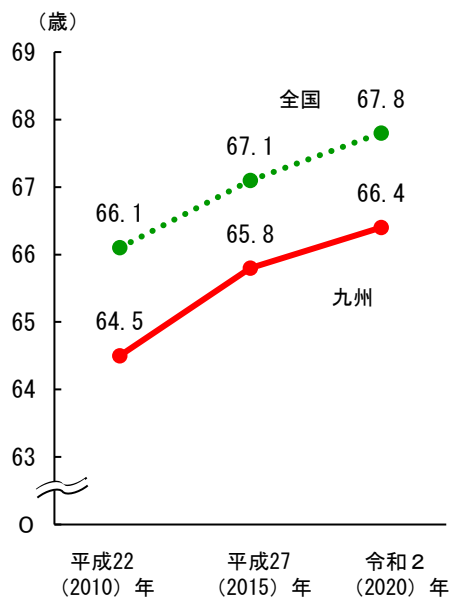
資料：農林水産省「生産農業所得統計」

【農産物販売金額5,000万円以上の農業経営体の割合は全国を上回る】

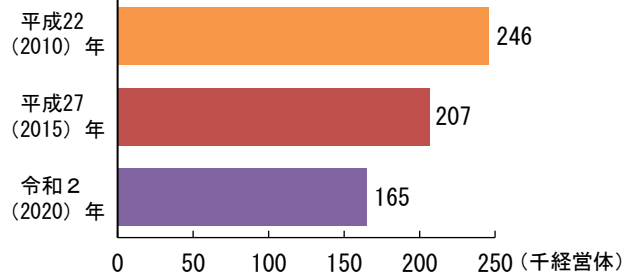
九州における基幹的農業従事者の平均年齢は全国に比べ1.4歳若くなっていますが、平均年齢は66歳を超え、農業者の高齢化が進んでいます。また、農業経営体数は165千経営体であり、10年前に比べて約3割減少しましたが、法人化している経営体は1,485経営体(37%)増加しています。

また、九州各県では農産物販売金額5,000万円以上の農業経営体の割合が増加しており、佐賀県、熊本県、宮崎県及び鹿児島県が全国平均を上回っています。

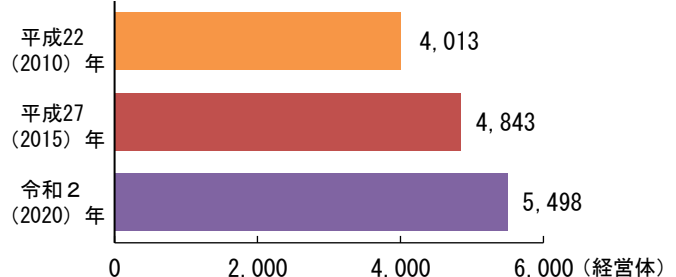
基幹的農業従事者平均年齢



農業経営体数の推移 (九州)



農業経営体数のうち法人経営体数の推移 (九州)



資料：農林水産省「農林業センサス」

注：基幹的農業従事者

基幹的農業従事者平均年齢

農業経営体

法人経営体

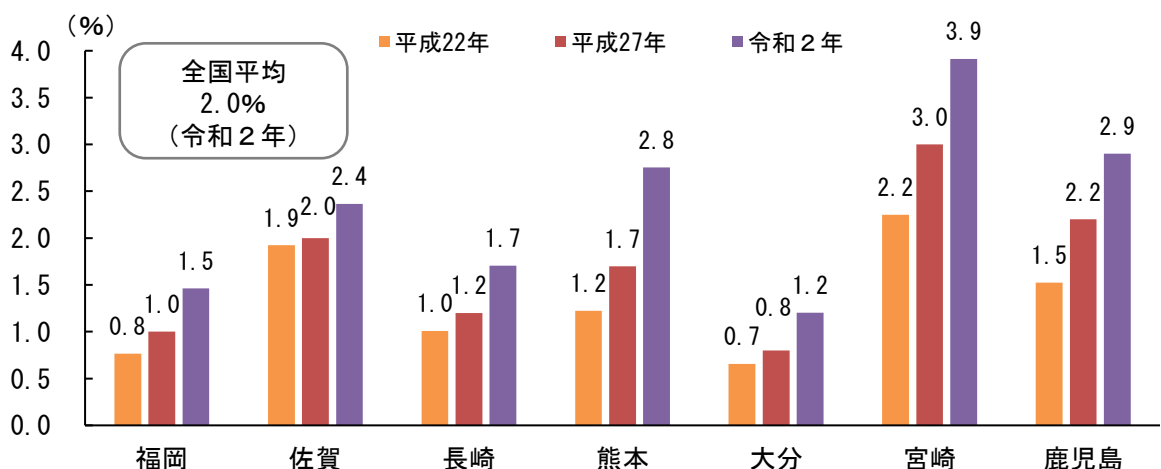
15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者をいう。

平成22 (2010) 年は販売農家の数値、平成27 (2015) 年、令和2 (2020) 年は個人経営体の数値。

経営耕地面積が30 a以上の規模の農業、又は販売金額50万円以上に相当する規模の農業を行う者（農作業の受託を含む。）。

農業経営体のうち、法人化して事業を行う者。

農産物販売金額5,000万円以上の農業経営体の割合



資料：農林水産省「農林業センサス」

構造 — 耕地面積 —

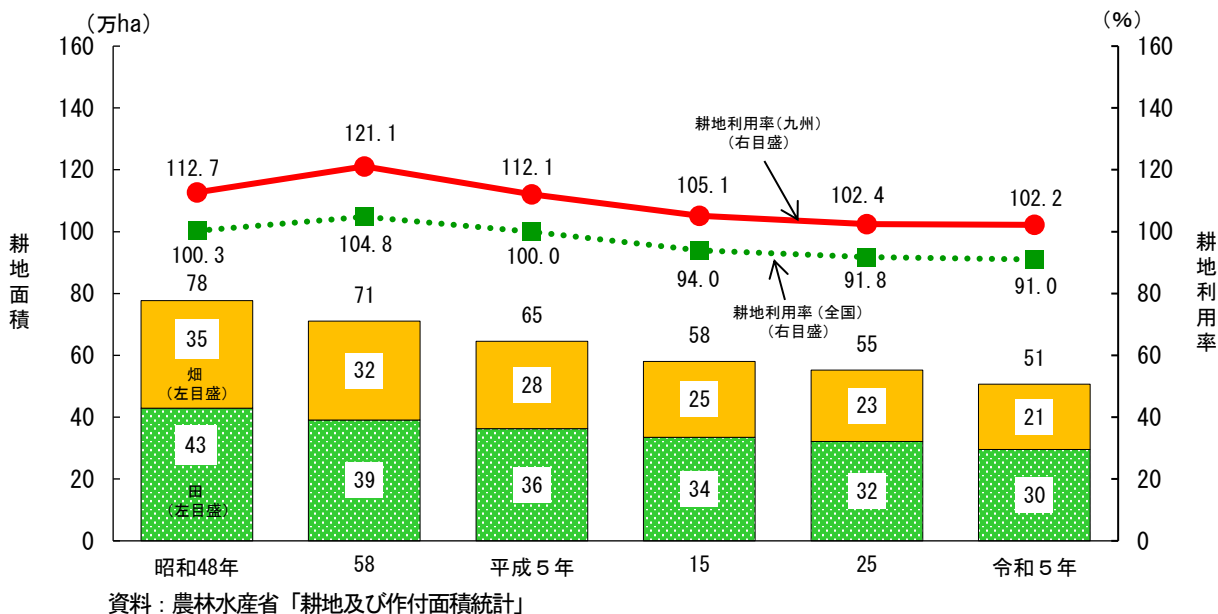
【耕地面積は50万6,300ha、耕地利用率は102.2%】

九州の耕地面積は、全国(430万ha)の約1割を占めています。

生産者の高齢化による荒廃農地の増加、宅地や道路への転用等の理由により、平成5(1993)年から約14万ha減少していますが、荒廃農地対策の推進等もあり、ここ近年の減少幅は緩やかになってきています。

耕地利用率は全国平均91.0%を上回る102.2%となっています。特に、福岡県、佐賀県では水田を活用した裏作(麦)が行われ、宮崎県では飼料作物の作付けが年間複数回行われることから100%を上回っています。

耕地面積と耕地利用率の推移(九州)



耕地及び作付延べ面積と耕地利用率(令和5(2023)年)

